

令和元年度

第16回 東京都高等学校体育連盟

研究大会 紀要



期日 令和2年2月15日(土)
会場 目白大学
主催 東京都高等学校体育連盟
後援 東京都教育委員会
主管 東京都高等学校体育連盟研究部
協力 目白大学
東京都高体連ホームページ

<http://www.tokyo-kotai ren. gr. jp>

令和元年度 第16回 東京都高等学校体育連盟 研究大会

表紙 デザイン協力

東京都立晴海総合高等学校 2年 濱田 陽成 さん

大会日程

<<開会式>>

15:00~15:20

- | | | |
|-----------|---------------------|-------|
| 1. 開会のことば | 東京都高等学校体育連盟研究部部長 | 庄司 一也 |
| 2. あいさつ | 東京都高等学校体育連盟会長 | 奥秋 將史 |
| 3. 祝辞 | 東京都教育庁指導部体育健康教育担当課長 | 堀川 勝史 |
| 祝辞 | 元東京都高等学校体育連盟会長 | 柿添 賢之 |

【講演】

15:20~16:20 60分 質疑応答 10分

「”Sport” という文化」～Sport と Sports の違いから～
(社会の中の運動部活動—スポーツ教育の原点を考える)

筑波大学体育系教授 菊 幸一

<<休憩 10分>>

【全国高体連研究大会 報告】

16:40~17:10

各分科会 7分

- | | |
|-----------|------------------------------|
| <競技力向上> | 阿部 一臣 (都立高島高等学校ソフトテニス専門部) |
| <健康と安全> | 堀越 和彦 (日本学園高等学校自転車競技専門部) |
| <部活動の活性化> | 柳澤 左門 (都立日本橋高等学校 ボート専門部) |
| <課題研究> | 高倉 千草 (都立六本木高等学校バレーボール女子専門部) |

【研究発表】

17:10~17:55

40分

質疑応答 5分

<課題研究>

「運動部活動が育むものとは何か ～部活動の存在意義についての調査～」

都立 清瀬 高等学校

鞠子 智秋

<研究報告>

「東京都高校体育連盟研究部 滋賀県大会に向けた取り組み」

「運動部活動の存在意義についての東京都の調査研究、統計分析」

都立 立川 高等学校

田中 康之

<<閉会式>>

17:55~18:00

- | | | |
|---------|------------------|--------|
| 1. あいさつ | 東京都高等学校体育連盟 副会長 | 杉渕 明子 |
| <司会者> | 東京都高等学校体育連盟 事務局長 | 浅見 浩一郎 |

目次

あいさつ	東京都高等学校体育連盟会長	奥秋 将史	1
大会役員			2
開催要項			3
講演			
	「” Sport” という文化」～Sport と Sports の違いから～ (社会の中の運動部活動—スポーツ教育の原点を考える)		
	筑波大学体育系教授	菊 幸一	4
研究発表			
	<課題研究>		
	「運動部活動が育むものとは何か 一部活動の存在意義についての東京都の調査研究—」		
	東京都高等学校体育連盟研究部 都立 清瀬 高等学校 鞠子 智秋		10
	<研究報告>		
	「滋賀県大会に向けた取り組み」		
	「運動部活動の存在意義についての東京都の調査研究、統計分析」		
	東京都高等学校体育連盟研究部		19
研究部規約			23
研究部 組織と名簿			24
調査用紙			25
	「令和元年度 第54回全国高等学校体育連盟 研究大会紀要（抜粋）」		27



研究大会に寄せて

東京都高等学校体育連盟
会長 奥秋 將史

令和元年度、第16回東京都高等学校体育連盟研究大会が、研究部を中心に各競技専門部の皆様のご協力と関係者の方々のご支援により開催できますことを心より感謝申し上げます。本連盟は、「競技力向上」と「研究」を両輪と捉えて活動しています。この研究大会は、東京都高等学校体育連盟に加盟する各専門部の体育・スポーツ指導者の資質向上を図ることを目的としています。

今年度は、「競技力向上」「健康と安全」「部活動の活性化」の3分科会からそれぞれのテーマについて発表が行われます。また、この1月に滋賀県で実施された全国高等学校体育連盟研究大会の報告も行われます。これらの研究発表などが高等学校教育の一環としての体育・スポーツの振興発展に資するものとなりますことを期待しています。

さて、昨年夏、令和元年度全国高等学校総合体育大会「感動は無限大 南部九州総体2019」が、鹿児島、熊本、宮崎、沖縄、和歌山の5県において開催され、各専門部の先生方のご尽力のおかげで成功裏に終了いたしました。東京勢の活躍も素晴らしく、陸上競技、新体操、体操競技、ソフトテニス、柔道、水泳、レスリング、ウェイトリフティング、ボクシング、自転車競技、アーチェリー、卓球、バドミントン、サッカーで多くの優勝者を出すことができました。その他の競技においても「チーム東京」を合言葉に、選手一人ひとりが最高のパフォーマンスを発揮し、観る人に勇気や感動を与えることができました。これもひとえに各専門部の先生方の、熱い情熱や深い愛情によるご指導の賜物と感謝申し上げます。

今年は、国民の興味・関心が高まる中、いよいよ東京オリンピック・パラリンピックが開催されます。同年に予定している「魅せる躍動 北関東総体2020」は全国都道府県のご協力をもとに全競技の開催が決まりました。世界のスポーツの祭典が自国開催され、国民の興味・関心はさらに高まり、その年の高校生アスリートの躍動も大いに感じていただきたいと思います。本連盟としても、全競技開催に向けて組織的に取り組んでまいります。また、高体連が解決すべき課題は体罰根絶、部活動の在り方、危機管理における健康や安全指導など課題山積ではありますが皆様のご理解とご協力をお願い申し上げます。

結びに、本研究大会の開催に向けご尽力いただきました研究部を始め関係専門部の皆様や、会場を提供していただいております目白大学を始め、ご支援いただきました多くの関係者の方々に深く感謝申し上げます。ご挨拶とさせていただきます。

令和元年度 第16回東京都高等学校体育連盟研究大会 役員

会長	奥秋 將史				
副会長	畑澤 正一 浅見 浩一郎	高橋 あゆち 高坂 仁	鯨岡 廣隆 高野 学	平池 徳見	杉渕 明子
参与	鴻野 誠 山田 智美	高野 幸代 栗原 信一郎	池戸 成記 各専門部長	渡辺 洋司	佐々木 心哉
委員長	庄司 一也				
副委員長	田中 康之	中塚 義実			
委員	塩田 伸隆 高倉 千草 新井 理仁	堀越 和彦 征矢 範子 牧野 飛人	柳澤 左門 阿部 一臣 倉田あゆみ	鞠子 智秋 真鍋 健治 各専門部代表	奥 正克 秋月 隼 研究部委員

運 営 役 員

総務	田中 康之				
総務員	中塚 義実				
渉外・接待	高野 幸代	齋藤 香	奥田 浩美	宮石 摩紀子	
会計	新井 理仁				
紀要	塩田 伸隆				
(表紙)	都立晴海総合高校				
記録(写真)	高倉 千草				
記録(録音・テープ起し)	真鍋 健治				
受付	新井 理仁	征矢 範子	秋月 隼	奥 正克	
司会者	浅見 浩一郎				
発表	鞠子 智秋	田中 康之			
全国高体連研究大会報告	阿部 一臣	堀越 和彦	柳澤 左門	高倉 千草	

令和元年度

第16回東京都高等学校体育連盟研究大会

開催要項

- 1 趣 旨 東京都高等学校体育連盟に加盟する各専門部の体育・スポーツ指導者の資質向上を図るために日ごろの研究、指導の成果を発表するとともに高体連の直面する諸問題について情報交換し、高等学校教育の一環としての体育・スポーツの振興発展に資する。
- 2 主 催 東京都高等学校体育連盟
- 3 後 援 東京都教育委員会
- 4 主 管 東京都高等学校体育連盟研究部
- 5 期 日 令和2年2月15日(土) 15時00分～18時00分
- 6 会 場 目白大学 新宿キャンパス 〒161-8539 新宿区中落合 4-31-1
西武新宿線「中井」・都営大江戸線「中井」駅より 徒歩8分
- 7 参加者 東京都高等学校体育連盟加盟校の体育・スポーツ指導者
東京都高等学校の部活動に興味関心を持つ指導者・研究者・学生
- 8 内 容 (1) 講演 講師 菊幸一氏 (筑波大学体育系教授)
(2) 全国高体連研究大会 報告 課題研究・3分科会
(3) 研究発表「東京都高体連研究部」

※各発表テーマ・講演内容は、<http://www.tokyo-kotairen.gr.jp>に掲載します。

- 9 時 程 14時30分 受付
15時00分 開会式
15時20分 講演 60分。 質疑応答 10分

——休憩 10分——

- | | | | |
|--------|-----------|-----------|-------------|
| 16時40分 | 全国研究大会 報告 | 各分科会・課題研究 | 各7分 |
| 17時10分 | 発表 | 東京都課題研究 | 40分 質疑応答 5分 |
| 17時55分 | 閉会式 | | |

10 参加申込み

参加申し込みは、所定の用紙に必要事項を記入の上、各専門部で一括して申し込む。
個人の申し込みは、下記申込先に直接連絡する。

申込先 〒190-0022 〒190-0022 東京都立川市錦町2-13-5
東京都立立川高等学校内 田中康之
TEL 042-524-8195 FAX 042-527-9906

申込期限

令和2年1月14日(火) 必着

【講演】

「” Sport ” という文化」 ～Sport と Sports の違いから～

(社会の中の運動部活動 ―スポーツ教育の原点を考える―)



菊 幸一

筑波大学体育系教授

《 プロフィール 》

富山県生まれ。筑波大学大学院博士課程体育科学研究科単位取得退学。教育学博士（1988年、筑波大学）。体育社会学、スポーツ社会学を専攻。1987年九州大学健康科学センター、1990年奈良女子大学文学部、2003年筑波大学体育科学系を経て現職。この間、1992～93年に英国レスター大学、米国イリノイ大学、ミネソタ大学にて客員研究員、2016～17年にオーストリア・ウィーン大学にて客員教授。

1991年に文部省（当時）学習指導要領高等学校保健体育科指導資料の作成協力者となって以後、同学習指導要領の作成協力者として3回の改訂に携わる。2018年告示の新学習指導要領高等学校保健体育科では作成協力者会議の座長を務める。現在、日本体育学会副会長、同学会体育社会学専門領域代表、日本スポーツ社会学会会長、日本スポーツ協会国民体育大会委員会副委員長、日本オリンピック委員会アントラージュ専門部会委員など。

主な著書に、『スポーツプロモーション論』（共編著、明和出版、2006年）、『現代スポーツのパースペクティブ』（共編著、大修館書店、2006年）、『「楽しい体育」の豊かな可能性を拓く』（共著、明和出版、2007年）、『「からだ」の社会学』（共編著、世界思想社、2008年）、『スポーツ政策論』（共編著、成文堂、2011年）、『よくわかるスポーツ文化論』（共編著、ミネルヴァ書房、2012年）、『現代スポーツは嘉納治五郎から何を学ぶのか』（編著、ミネルヴァ書房、2014年）、『新版体育科教育学の現在』（共著、創文企画、2015年）、『<ニッポン>のオリンピック』（共著、青弓社、2018年）など。

「”Sport”という文化～Sport と Sports の違いから～」
(社会の中の運動部活動—スポーツ教育の原点を考える—)

菊 幸一 (筑波大学体育系教授)

1. 「日本の」運動部活動—何が問題か？

- 1) 少子高齢化による部員減少 → 部活自体が成立しない？
←(その構造的要因とは？:)
- 2) 勝利至上主義 → エリート主義化と中途離脱？
←(その構造的要因とは？:)
- 3) 体罰・暴力・ハラスメント… → これまであまり問題にされなかった？
←(その構造的要因とは？:)
- 4) 教員の加重負担 → ボランティアで成り立つ指導の限界？
←(その構造的要因とは？:)
- 5) その他
()

2. 運動部活動の内容は「スポーツ」なのに、なぜ「運動」なのか？

- 1) スポーツ = 運動？ それとも、 スポーツ ≠ 運動？
- 2) 「文化としてのスポーツ」という言い方
⇔ 学校部活動では、「運動部」と「文化部」の区分？
- 3) 運動部が対象とする「スポーツ」とは、どのような文化なのか？

3. Sport と Sports の違いから考える ”Sport” という文化

- 1) Sport と Sports の違いとは？
(例)「野球」は、なぜ「スポーツ」なのか？
- 2) ”Sport” の語源 → deportare (デポルターレ：ラテン語)
→ desport (中世仏語) → Disport (中世英語) → sporte/sport (16世紀英語)

3) "Sport" の意味の変遷

- ① 「まじめで義務的な事柄からの気分転換、休養、娯楽」(英語化した当初)
- ② 「戸外で楽しまれるゲームや気晴らし」(16世紀)

-
- ③ 「野外での身体活動をともなう気晴らしや娯楽、特に狩猟や賭けをともなう勝負事や見せびらかし」(17~18世紀)

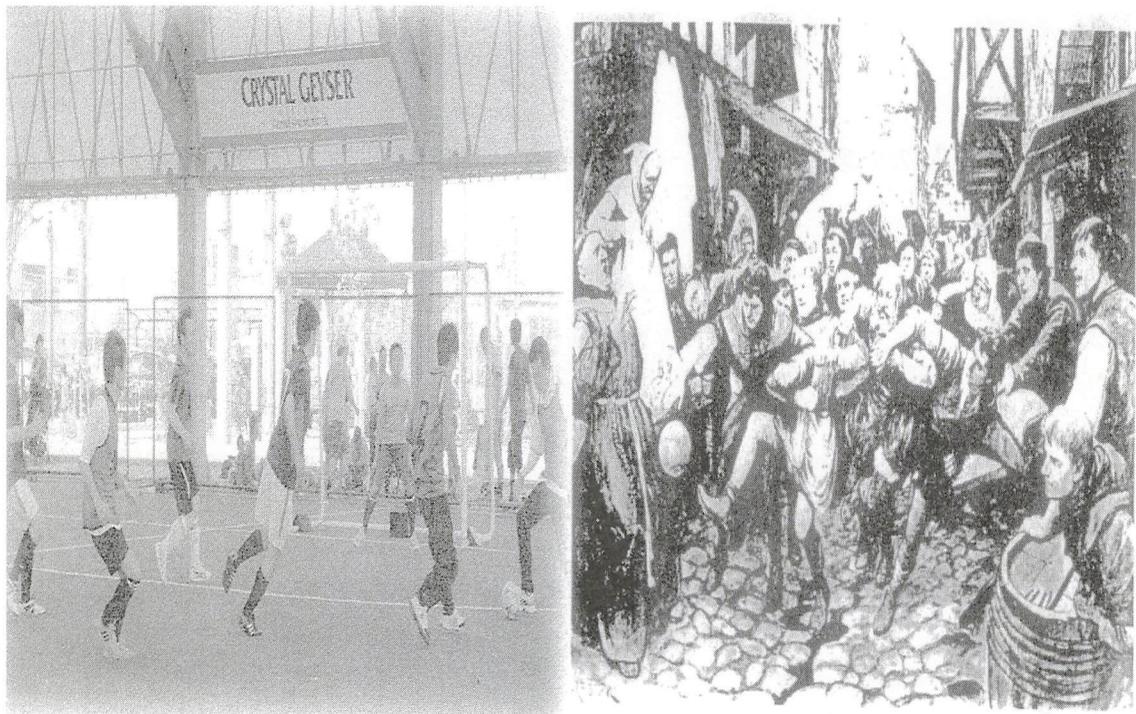
-
- ④ 「戸外で行われる競技的性格を持つゲームや運動を行うこと、およびそのような娯楽の総称」(19世紀)

4) 「楽しさ」の2類型

- ・ ①~② → 苦しいこと (=拘束) 「から」解放される楽しさ
- ・ ③~④ → 苦しいこと (=拘束) を「求める」楽しさ

4. 「サッカー」という「スポーツ」の発明—Spotization とは何か?—

1) サッカーとモブ・フットボールの違いとは?



2) モブ・フットボールから、なぜサッカーとラグビー (=近代スポーツ) は誕生したのか?

5. 近代英国における課外活動の誕生—なぜ「学校運動部」は誕生したのか?—

1) 近代以前のパブリックスクールの惨状



2) 「暴力禁止」という教師側からの道徳的指導 → 限界

↔ 一方で、夢中になって体を使って遊ぶ子どもたちの姿



3) 近代スポーツの誕生 → ラグビー校トマス・アーノルドの卓見

・ キーワード=「自治」「自発性」 ⇒ 「自由」から「規律」が生まれる
= 「自己規律化」をめざす教育への転換 (180度の発想転換)

・ 校庭から、playing field へ

・ 対抗戦 (トーナメント、一発勝負) からリーグ戦へ

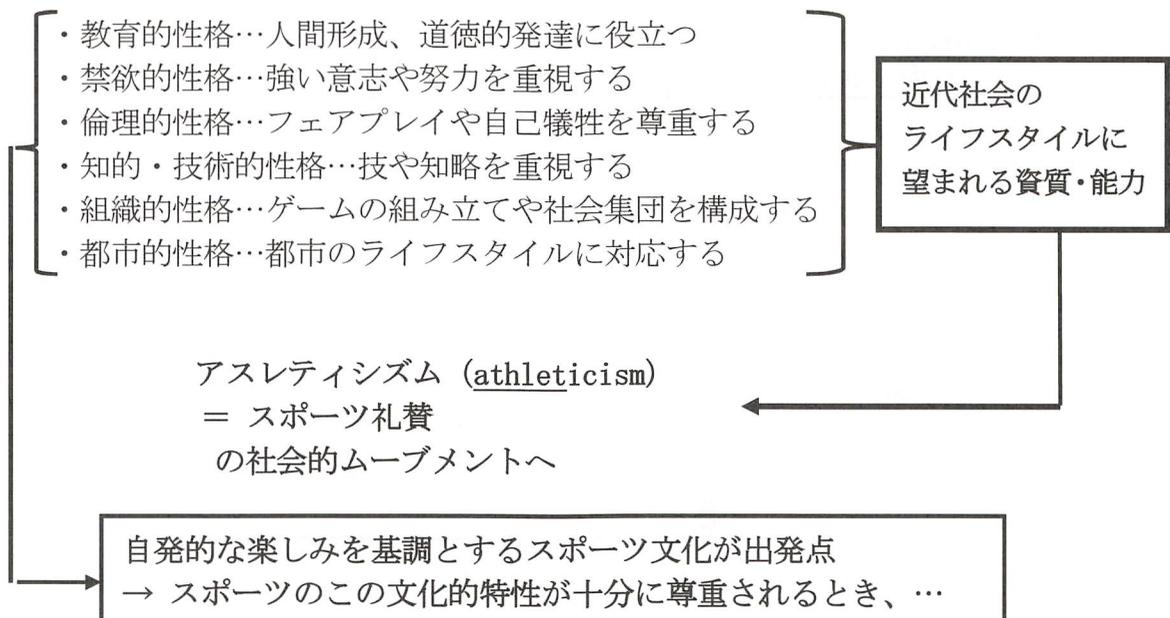
・ 「楽しさ」の延長をめざす=安全な (非暴力的な) ゲームをめざす態度の
自発的醸成 = スポーツ化 (spotization) = 文明化



課外スポーツクラブとしてのスポーツ教育の誕生

4) 英国社会における課外活動は、なぜ礼賛されたのか?

→ 近代スポーツの社会的性格による < 非暴力的性格を前提とする



6. 日本における課外運動部活動の導入とその教育的意義

Q? : なぜ、たかがスポーツを高等教育機関＝大学に積極的に取り入れたのか?

→ 本来の趣旨、理念 = 西欧近代化モデルとしての課外スポーツ
(= 手段的 > 目的的)

⇔ 後進国の教育的焦り (時間のなさ)、強制的権力の発揮

→ ときには暴力へ

≠ 競争の過程の楽しさ < 結果の社会的重要性

< 個人→学校→国家の名誉や威信

1) 教育の自立が孤立に変わるとき cf. 戦後の教育委員会制度の誕生

・ 教育の論理 > 社会の論理 → 社会を先導する教育

→ 非学歴社会における教育の尊重 (大衆化された立身出世主義)

・ メリットクラシー形成のための教育 → 教育礼賛と教育の手段化

・ 教育と社会の断絶? → 「校門を出でず」

2) 戦後日本社会における学校の教育独占と社会からの学校依存

・ スポーツの場の独占と子ども/先生 (指導者) の閉鎖的な空間

⇒ 「チームワーク」という名の疑似家父長的共同体の生産

・ 中学校や高校のシステム＝生徒の新陳代謝 < 指導者の保守化を助長

3) 「体罰」という名の暴力発動の正当化と社会との矛盾

・ 教育的言説としての「信頼」「愛情」「愛のムチ」…

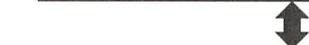
= 身内 (共同体) の論理

・ 現代 (グローバル) 社会における「暴力根絶」との温度差の拡大

⇔ 一方で、現代社会は、暴力ではない「興奮」をどこまで許容されるのかを
探求する

・ 現代スポーツは、現代社会における人間の「興奮」を探求する可能性の場

⇒ スポーツによって、現代人は興奮の許容限度を知る



◎ 「体罰」「暴力」は、そのような現代スポーツへの社会的信頼を裏切る

◎ // 、教育への社会的信頼を裏切る



21 世紀社会を支える運動部活動の社会的、文化的価値を創出する運動部指導者の使命とは?

→ みんなのスポーツ … 平等性と格差是正

→ > 生涯スポーツ … 生涯にわたるスポーツの文化的享受の一環

→ > 競技スポーツ … 個性の伸長 (one of them)

7. おわりに：スポーツの 21 世紀的価値（「スポーツ宣言日本」2011.7）に寄せて

1) (スポーツの定義)

「スポーツは、自発的な運動の楽しみを基調とする人類共通の文化である」

2) スポーツは、その基本的な価値を、自己の尊厳を相手の尊重に委ねるフェアプレーに負う。

この相互尊敬を基調とするスポーツは、自己を他者に向けて偽りなく開き、他者を素直に受容する真の親善と友好の基盤を培う。



近代スポーツの原点としての「社交」

3) 「何のための、誰のための」運動部活動なのか、を問い続けること

⇒「クラブライフ」としてのスポーツ、の文化的享受の貴重な時空間

←「クラブ」とは何か？

→第3空間としてのクラブの歴史社会的意義

～講演メモ～

運動部活動が育むものとは何か

～部活動の存在意義についての東京都の調査研究～

東京都高等学校体育連盟研究部

鞠子 智秋（東京都立清瀬高等学校）

1. はじめに

すぐそこまで東京 2020 大会が迫ってきている。開催が決定し、日本国内におけるスポーツに対する世間の注目は増し、様々な分野での改革が進み、その成果を今か今かと待ち望んでいる状況である。

スポーツアスリートの育成土台を築き、長く牽引してきたのは学校体育とりわけ運動部活動であり、この独自の運動・スポーツ文化の発展は本研究大会でも紹介されている(平 29 島根大会)。現在、学校の部活動をめぐってさまざまな課題が指摘され、見直しを迫られている。平成 30(2018) 年 3 月、スポーツ庁は「運動部活動の在り方に関する総合的なガイドライン」を策定し、「高等学校段階の運動部活動についても本ガイドラインを原則として適用し、速やかに改革に取り組む」と明記されている。正に、待ったなしで部活動改革に本腰を入れて取り組むべき段階にきているといえる。

東京都高体連研究部は、東京 2020 大会を控えて注目度が上がるこの時期に、部活動の良さを広く訴えることが必要と考えた。今後の学校教育においても、「部活動は有益」というエビデンスを示す一助となることを期待する。本調査に関係する先行研究を探すと、千葉県課題研究(平 22 兵庫大会)、福井県内調査(平 23)、さらには運動部活動の在り方に関する調査研究報告 ～中学生・高校生のスポーツ活動に関する調査研究協力者会議～(平 9 文部科学省)等にあたった。その中で千葉県高体連は次のようにまとめている。「以下、引用文。『運動競技の継続が「社会人基礎力」のような能力を高めるのは当然でわかりきったことだ』という意見もあろう。しかし、今研究の目的は分かり切ったことを客観的に表現することにある。これらが発展的に継承され、多くの指導者によって「人間(社会人)育成」に観点をおいた取り組みが成され、自信をもって部活動指導ができる環境づくりの役に立つことになればありがたい。」

私たち東京都も本調査研究が契機となり、部活動が育てているものはどのような力なのか? 今後益々の発展のために、部活動指導に必要な要素は何であるのか? 全国の熱心な皆さんと共有し、熱い議論の展開へと波及していくことを切に願っている。

2. 研究調査の目的

本研究では、東京都内高校 3 年生を対象に部活動の参加実態とその意義を調査した。この調査を通して明らかにしたいことは、部活動経験者がどのような活動を通して、どのような力をつけているのかを把握すること。そして、部活動が育んでいる教育的価値や財産及び育み切れていない力が何であるのか、課題を明らかにすることである。

3. 研究調査の方法

(1) 調査対象者

東京都内の 12 校(常任委員勤務校)を抽出し、在籍する 3 学年生徒全員を対象とした。

設置者	校名(高等学校)	学科	所在地	アンケート実施数
国立	筑波大学附属	普通科	文京区	208
都立	晴海総合	総合学科	中央区	228
都立	第一商業	商業科	渋谷区	156
都立	美原	普通科	大田区	219
都立	日本橋	普通科	墨田区	236
都立	高島	普通科	板橋区	277
都立	清瀬	普通科	清瀬市	288
都立	府中東	普通科	府中市	271
都立	立川	普通科	立川市	264
私立	中央大学	普通科	文京区	142
私立	桜丘	普通科	北区	226
私立	日本学園	普通科	世田谷区	132
計 12 校				2647

(2) 調査方法

調査方法配票 留置法による自記式質問紙調査

(3) 調査期間

令和元年6月24日から7月15日

(4) 調査内容

- ①基本属性（性別、所属部活）（設問0、設問A1-1から1-4）
- ②部活動活動実態（取り組み、役割、経験年数、入部動機、目標に対する貢献、活動に対する思い、活動時間、頻度、活動満足度、休養日の過ごし方（設問B1から24）
- ③部活動の意義に関する質問（設問C1から18）

「社会人基礎力」とは

経済産業省が主催した有識者会議により、職場や地域社会で多様な人々と仕事をしていくために必要な基礎的な力を「社会人基礎力(=3つの能力・12の能力要素)」として定義。



- C1: 主体性
- C2: 働きかけ力
- C3: 実行力
- C4: 課題発見力
- C5: 計画力
- C6: 創造力
- C7: 発信力
- C8: 傾聴力
- C9: 柔軟性
- C10: 状況把握力
- C11: 規律性
- C12: ストレスコントロール力

設問C1～12については、社会人基礎力をわかりやすく文章化し、作成した。

設問C13～18については、運動部活動の在り方に関する調査研究報告（平成9年12月文部省）を基にしながら作成した。

④質問紙作成にあたって

設問の作成にあたって、学習院大学教授長沼豊氏や名古屋大学准教授内田良氏から助言をいただいた。（以下、東京都高体連研究部でまとめた）

「意義」について明らかにした調査研究は部活動の分野ではあまり見られない。特別活動学会においても同様。いずれも「意義があるからやっている」。研究としては「方法（どのようにやっているのか）」が多い。何が育まれるかを「社会人基礎力」でみる方法はある。「非認知的能力」にあたる。「OECDにおけるキー・コンピテンシーについて」が参考になる（文部科学省HP）これらの資質・能力は、昔から言われていた「意義」を整理したものとも言える。このような概念を踏まえて質問紙に落とし込むとよい。設問0についてはジェンダーと性認識は最近難しく、1. 男性、2. 女性だけでなく、3. 明らかにしたくない人、として（どちらにも○を付けたくない人）のための選択肢を作っておく必要があるというのが一般的な流れである。

⑤調査結果の分析

調査分析にあたっては、業者委託をした。

委託先 株式会社 ムサシ・エービーシー 東京都中央区 TEL:03-6228-4810 FAX:03-3555-6039

アンケート内容を検討・作成し、業者にデータを送付。業者によって印刷、各学校へ配送。

アンケート実施後、各学校から業者に返送。データ集計からデータ納品までおよそ3～4週間程度。

データ集計の方法などについては、担当者との直接打ち合わせを何度か行った。

4. 結果と考察

(1) 調査対象の人数構成

今回の調査を実施した総数は2647人で、その内男性は1207人・45.6%、女性は1307人・49.5%、明らかにしたくないは132人・5.0%、入力不備は1人であった。

以後の表中では、データの誤差が所々生じている。誤差が生じる理由は、回答者による不備（例、一問一答形式での複数回答、該当設問の回答をとばす、回答権限のない人が答えている、判読不明等）である。また、掲載した表データの「明らかにしたくない」、および「兼部」と回答した数についての取り扱いについては、集計の表には反映させず、男女合計の数値で考察やまとめに使用することとした。

(2) 部活動参加の実態

※各内訳は、表のとおりである。

所属先	全体	割合(%)	内訳(男)	内訳(女)	内訳(不詳)	不備
運動部	1365	51.1	686	534	44	—
文化部	691	25.9	186	420	27	—
未加入	534	20	228	221	44	—
兼部(運動・文化)	68	2.8	36	29	3	—
合計(誤差有)	2658	99.8	1136	1204	118	—
実施総数	2647	100	1207	1307	132	1

運動部は計1365人・51.1%であった。文化部は計691人・25.9%であった。部活動に加入していないは計534人・20.0%であった。運動部と文化部の兼部は計68人・2.8%であった。

(3) 調査対象部の人数構成

対象12校の運動部を種目別、および男女構成別に見ると、以下の通りであった。

尚、種目選択①～⑳の作成にあたっては、文末脚注に記載した。

設問A1-2 所属する部活動種目を選択してください。	①男性	②女性	件数	トータル 合計件数	設問A1-3 所属する部活動種目を選択してください。	①男性	②女性	件数	トータル 合計件数
	件数	件数				件数	件数		
①陸上競技	33	19	1	53	①演劇	12	23	1	36
②体操競技	2	4	1	7	②合唱	3	16	0	19
③バスケットボール	70	57	6	133	③吹奏楽	19	68	3	90
④バレーボール	49	68	2	119	④器楽・管弦楽	16	36	1	53
⑤ソフトテニス	16	14	1	31	⑤日本音楽	4	1	0	5
⑥ソフトボール	9	16	0	25	⑥吟詠剣詩舞	0	0	0	0
⑦スキー	0	0	0	0	⑦郷土芸能	0	4	0	4
⑧スケート	0	0	0	0	⑧マーチングバンド・バトントワリング	1	3	0	4
⑨卓球	30	6	2	38	⑨美術・工芸	3	36	0	39
⑩軟式野球	24	4	1	29	⑩書道	2	9	0	11
⑪硬式野球	78	5	4	87	⑪写真	3	10	0	13
⑫ラグビー	1	0	1	2	⑫放送	5	15	0	20
⑬サッカー	115	22	7	144	⑬囲碁	0	0	0	0
⑭ハンドボール	21	7	1	29	⑭将棋	0	0	0	0
⑮バドミントン	71	72	6	149	⑮弁論	0	0	0	0
⑯柔道	8	1	0	9	⑯小倉百人一首かるた	1	8	0	9
⑰剣道	25	15	1	41	⑰新聞	0	2	0	2
⑱水泳	22	26	1	49	⑱文芸	4	6	0	10
⑲硬式テニス	84	61	3	148	⑲自然科学	12	4	2	18
⑳その他	55	155	9	219	⑳その他	120	185	18	323
合計	713	552	47	1312	合計	205	426	25	656

運動部のその他に該当する種目は、ダンス、少林寺拳法、山岳、ボクシング、弓道、トライアスロン、ゴルフ、フットサル、ボート、ヨット、ブレイクダンス、バトン、格闘技であった。

文化部のその他に該当する種目は軽音楽部、和太鼓、茶道、華道、家庭科、漫画研究、箏曲、地学、天文気象、パソコン、生物、服飾、クッキング、フリーライティング、ボランティア、クイズ研究、為替株式学習、鉄道研究、電気技術研究、社会科研究、映画研究、モノポリー同好会、表彰文化研究、園芸、福祉、イラスト、国際交流、ESS、JRC、聖書研究等であった。

(4) 部活動の意義～健全育成への貢献とは～

a 部活動に所属する生徒

【表1】は、部活動に所属する生徒と未加入者との設問C1～18までの結果をクロス集計したものである。今研究では、アンケート集計結果を加重平均によって、回答の傾向を見ることとした。回答の選択肢は①当てはまる、②やや当てはまる、③あまり当てはまらない、④当てはまらないとした。【以下、表2以降では①～④と表記する。】この選択肢の①を1点、④を4点と設定し、最もよい回答を1点とした。加重平均をとることによって、選択肢に重みをつけ、生徒の回答がどちらに寄っているのかを見るためである。【表1】

設問A1-1 高校で所属している(いた)部活動を 教えてください。 【男子・女子合計】	あ運動部 (同好会含む)					い文化部 (同好会含む)					う部活動に加入していない					あ ・ う の 差
	①当ては まる	②やや当 てはまる	③あまり 当てはま らない	④当ては まらない	加 重 平 均	①当ては まる	②やや当 てはまる	③あまり 当てはま らない	④当ては まらない	加 重 平 均	①当ては まる	②やや当 てはまる	③あまり 当てはま らない	④当ては まらない	加 重 平 均	
	1	2	3	4		1	2	3	4		1	2	3	4		
調査した力等	件数	件数	件数	件数		件数	件数	件数	件数		件数	件数	件数	件数		
C 1 主体性	472	601	106	19	1.73	196	301	89	9	1.85	120	222	75	28	2.02	0.30
C 2 働きかけ力	317	589	255	37	2.01	114	286	177	18	2.17	71	198	127	49	2.35	0.34
C 3 実行力	275	586	300	37	2.08	99	278	203	15	2.23	60	205	135	45	2.37	0.29
C 4 課題発見力	260	643	267	26	2.05	109	314	154	15	2.13	71	241	95	32	2.20	0.15
C 5 計画力	271	583	316	27	2.08	93	318	165	16	2.18	73	210	123	33	2.26	0.18
C 6 創造力	211	533	390	62	2.25	107	266	185	33	2.24	84	154	155	45	2.37	0.11
C 7 発信力	175	525	427	71	2.33	67	233	246	44	2.45	53	148	194	43	2.52	0.19
C 8 傾聴力	434	607	136	21	1.79	195	325	63	9	1.81	147	232	46	14	1.83	0.05
C 9 柔軟性	358	616	70	2	1.73	268	474	70	10	1.78	138	246	46	10	1.84	0.11
C 1 0 状況把握力	351	702	129	16	1.84	151	338	93	9	1.93	112	231	80	16	2.00	0.16
C 1 1 規律性	569	543	77	8	1.60	254	292	41	4	1.65	208	184	35	12	1.66	0.06
C 1 2 ストレスコントロール力	264	557	293	83	2.16	105	271	160	55	2.28	97	204	89	49	2.21	0.04
加重平均値の平均					1.97					2.06					2.14	0.16
C13 喜び・いきがい	476	495	159	55	1.83	166	263	124	34	2.04	99	179	107	50	2.25	0.42
C14 体力・健康の向上	709	400	55	21	1.48	112	222	176	76	2.37	101	154	126	54	2.31	0.82
C15 心を許せる仲間形成	725	375	65	21	1.48	288	232	47	17	1.65	158	173	76	29	1.94	0.47
C16 追求・高める楽しさ	641	420	94	31	1.59	274	239	57	17	1.69	152	165	77	42	2.02	0.43
C17 活動をより好きになる	558	449	133	46	1.72	242	263	58	24	1.77	123	164	96	53	2.18	0.46
C18 学校生活への好影響	599	458	95	34	1.63	224	256	76	30	1.85	117	177	91	51	2.17	0.54
加重平均値の平均					1.62					1.89					2.15	0.52

この加重平均値の表から、社会人基礎力および充足度への貢献状況は、運動部>文化部>未加入という図式がほぼ全てに当てはまることがわかった。文化部<未加入と逆転した項目は、C12(ストレスコントロール力)とC14(体力・健康の向上)であった。この結果は、部活動に健全育成を担う力があるという傾向を示す重要な手がかりとなりうる。また、運動部活動の意義としても、文化部や未加入よりもその健全育成を担う力が高い傾向にあることが示す手がかりを得たといえる。そして、社会人基礎力よりも充足度の方がよい数値を示したことから、部活動が生徒の生活を充実させる貴重な時間であることが示されたといえる。

b 部活動に未加入の生徒

右の【表2・3】は部活動未加入者におけるC1～18までの加重平均値である。この結果から、例えば未加入者であっても生徒会や校外クラブ等の活動を熱心にやる生徒の方が何もやらない生徒よりも加重平均値がよい傾向を示すことがわかった。

【表2】生徒会・委員会 / 校外クラブ活動 / アルバイト

部活動未加入者 C1～18 加重平均値	設問A1-4 1) 校内での生徒会・委員会 に熱心に取り組んでいる。				設問A1-4 2) 校外でのクラブ活動(ス ポーツ・芸術等)に熱心に取 組んでいる。				設問A1-4 3) アルバイトに熱心に取 組んでいる。			
	加重平均				加重平均				加重平均			
	①	②	③	④	①	②	③	④	①	②	③	④
調査した力等												
C 1 主体性	1.41	1.92	1.96	2.22	1.57	1.84	2.02	2.13	1.77	2.10	2.16	2.14
C 2 働きかけ力	1.73	2.26	2.28	2.56	1.78	2.16	2.35	2.48	2.02	2.46	2.34	2.53
C 3 実行力	1.76	2.36	2.26	2.54	1.93	2.24	2.33	2.47	2.15	2.37	2.47	2.50
C 4 課題発見力	1.67	2.25	2.26	2.27	1.78	2.17	2.33	2.26	2.06	2.26	2.31	2.25
C 5 計画力	1.71	2.23	2.24	2.37	1.67	2.06	2.25	2.36	2.12	2.31	2.28	2.30
C 6 創造力	1.88	2.20	2.46	2.48	1.80	2.17	2.37	2.46	2.18	2.50	2.44	2.41
C 7 発信力	2.02	2.43	2.62	2.60	2.00	2.39	2.52	2.59	2.27	2.56	2.53	2.62
C 8 傾聴力	1.44	1.82	1.85	1.95	1.53	1.75	1.90	1.90	1.67	2.04	2.03	1.87
C 9 柔軟性	1.52	1.77	1.94	1.95	1.44	1.78	1.92	1.93	1.78	2.00	1.94	1.87
C 1 0 状況把握力	1.67	1.97	2.06	2.08	1.67	1.97	1.98	2.07	1.80	2.17	2.16	2.06
C 1 1 規律性	1.31	1.66	1.63	1.76	1.40	1.81	1.75	1.68	1.51	1.78	1.78	1.73
C 1 2 ストレスコントロール力	2.00	2.00	2.21	2.34	1.82	2.42	2.10	2.27	2.14	2.21	2.28	2.27
加重平均値の平均	1.68	2.07	2.15	2.26	1.70	2.06	2.16	2.22	1.96	2.23	2.23	2.21
C13 喜び・いきがい	1.79	2.09	2.11	2.51	1.51	2.08	2.20	2.44	1.91	2.30	2.55	2.46
C14 体力・健康の向上	2.04	2.16	2.08	2.52	1.56	2.19	2.16	2.48	1.97	2.26	2.29	2.56
C15 心を許せる仲間形成	1.81	1.82	1.90	2.09	1.36	2.14	1.88	2.06	1.75	1.96	1.94	2.12
C16 追求・高める楽しさ	1.83	1.83	1.87	2.21	1.36	1.94	1.94	2.17	1.77	2.04	2.00	2.20
C17 活動をより好きになる	1.85	1.95	1.99	2.43	1.40	2.03	2.06	2.37	1.93	2.17	2.26	2.38
C18 学校生活への好影響	1.81	2.05	1.97	2.41	1.64	2.19	2.04	2.32	1.93	2.16	2.29	2.36
加重平均値の平均	1.86	1.98	1.99	2.36	1.47	2.10	2.05	2.31	1.88	2.15	2.22	2.35

【表3】塾・予備校 / その他 / 何もやっていない

部活動未加入者 C1～18 加重平均値	設問A1-4 4) 塾・予備校に熱心に取 組んでいる。				設問A1-4 5) その他のことに熱心に取 り組んでいる。				設問A1-4 6) 何もやっていない			
	加重平均				加重平均				加重平均			
	①	②	③	④	①	②	③	④	①	②	③	④
調査した力等												
C 1 主体性	1.68	1.76	2.22	2.12	1.76	1.93	2.12	2.22	2.35	2.17	1.93	1.92
C 2 働きかけ力	2.17	2.08	2.47	2.43	2.08	2.26	2.47	2.55	2.58	2.55	2.36	2.22
C 3 実行力	2.03	2.24	2.53	2.45	2.24	2.24	2.26	2.55	2.73	2.49	2.33	2.24
C 4 課題発見力	1.85	2.02	2.42	2.29	2.02	2.16	2.32	2.28	2.44	2.32	2.13	2.10
C 5 計画力	1.80	1.97	2.35	2.35	1.97	1.88	2.30	2.42	2.48	2.49	2.18	2.11
C 6 創造力	2.18	2.16	2.48	2.40	2.16	2.30	2.45	2.48	2.54	2.49	2.41	2.25
C 7 発信力	2.37	2.37	2.68	2.56	2.37	2.42	2.50	2.69	2.86	2.60	2.52	2.35
C 8 傾聴力	1.73	1.78	1.94	1.90	1.78	1.83	1.80	1.93	1.87	1.92	1.84	1.83
C 9 柔軟性	1.73	1.76	1.87	1.93	1.76	1.86	2.02	1.90	1.89	1.90	1.87	1.87
C 1 0 状況把握力	1.86	1.84	2.06	2.04	1.84	2.02	2.07	2.09	2.11	2.10	2.06	1.93
C 1 1 規律性	1.55	1.65	1.77	1.68	1.65	1.50	1.77	1.74	1.71	1.78	1.64	1.65
C 1 2 ストレスコントロール力	2.21	2.23	2.13	2.22	2.23	2.12	2.29	2.26	2.18	2.16	2.20	2.25
加重平均値の平均	1.93	1.99	2.24	2.20	1.99	2.07	2.20	2.28	2.31	2.25	2.12	2.06
C13 喜び・いきがい	2.23	2.09	2.37	2.32	2.09	2.19	2.35	2.42	2.71	2.49	2.20	2.12
C14 体力・健康の向上	2.20	2.23	2.27	2.37	2.23	2.24	2.44	2.37	2.89	2.55	2.17	2.19
C15 心を許せる仲間形成	2.02	1.89	2.17	1.94	1.89	1.88	1.98	2.06	2.12	2.03	1.93	1.93
C16 追求・高める楽しさ	1.95	1.81	2.20	2.07	1.81	1.88	2.00	2.25	2.42	2.05	2.01	1.92
C17 活動をより好きになる	2.15	1.96	2.37	2.24	1.96	2.07	2.24	2.39	2.71	2.29	2.14	2.06
C18 学校生活への好影響	2.09	2.10	2.13	2.24	2.1	2.01	2.18	2.36	2.50	2.26	2.03	2.15
加重平均値の平均	2.11	2.01	2.25	2.20	2.01	2.05	2.20	2.31	2.51	2.28	2.08	2.06

【表4】部活動加入者の熱心さと身につけた力

部活動加入者 男女混合 (運動部・文化部)		設問B1 部活動に熱心に取り組んで いますか？				①と ④の 差
調査した力等		加重平均				
		①	②	③	④	
社会人基礎力	C 1 主体性	1.54	1.99	2.27	2.32	0.78
	C 2 働きかけ力	1.85	2.26	2.46	2.46	0.61
	C 3 実行力	1.93	2.34	2.47	2.53	0.60
	C 4 課題発見力	1.93	2.20	2.34	2.34	0.41
	C 5 計画力	1.97	2.29	2.30	2.34	0.37
	C 6 創造力	2.13	2.39	2.37	2.46	0.33
	C 7 発信力	2.24	2.50	2.61	2.51	0.27
	C 8 傾聴力	1.67	1.93	2.02	2.03	0.36
	C 9 柔軟性	1.69	1.93	1.97	2.06	0.37
	C 1 0 状況把握力	1.74	2.00	2.11	2.20	0.46
	C 1 1 規律性	1.49	1.77	1.85	2.03	0.54
	C 1 2 ストレスコントロール力	2.12	2.26	2.39	2.28	0.16
加重平均値の平均		1.86	2.16	2.26	2.30	0.44
充足度	C13 喜び・いきがい	1.61	2.19	2.42	2.49	0.88
	C14 体力・健康の向上	1.49	2.03	2.44	2.53	1.04
	C15 心を許せる仲間の形成	1.36	1.76	1.86	1.92	0.56
	C16 追求・高める楽しさ	1.35	1.92	2.08	2.35	1.00
	C17 活動をより好きになる	1.46	2.03	2.34	2.30	0.84
	C18 学校生活への好影響	1.46	1.93	2.32	2.30	0.84
	加重平均値の平均		1.86	1.98	2.24	2.31

部活動未加者の傾向から考察すると、取り組んでいる活動そのものに意義や価値があることはもちろん、どのように取り組んでいるかがとても大事であるということ。つまり、熱心に取り組もうという生徒自身の立ち位置が社会人基礎力や充足度の形成に影響を与えているのではないかということである。

c 熱心な生徒と身につけた力の関係

部活動未加入者の考察を踏まえ、部活動加入者の熱心さと身につけた力の関係を【表4】にした。この結果から熱心に取り組んだと回答した①と当てはまらなと回答した④との差が 0.4 以上あることがわかった。このことから、いかに生徒自身が熱心に取り組めるか、いかに指導者が生徒を熱心にさせられるかが健全育成の鍵を握っているのではないかと推察される。

d 経験年数と身につけた力の関係

部活動種目の経験年数との関係を【表5】に示した。この結果から経験年数が長い生徒の方が緩やかではあるが、社会人基礎力や充足度によい傾向が表れているといえる。また、経験年数の長い生徒ほど C 1 4 (体力・健康の向上) が高まったと回答している。小学校や中学校から始めた種目の活動を通して、健全育成への貢献が示唆される傾向だととらえることができると考える。

【表5】経験年数と身につけた力

設問B3 高校部活動で実施していた種 目(内容)の経験年数は次のどれ ですか？		か6年以 上	き4~6 年未満	<1~3 年未満	か ・ く の 差
調査した力等		加重平均			
社会人基礎力	C 1 主体性	1.65	1.72	1.83	0.18
	C 2 働きかけ力	1.95	2.09	2.07	0.12
	C 3 実行力	2.03	2.14	2.15	0.12
	C 4 課題発見力	1.99	2.01	2.11	0.11
	C 5 計画力	2.00	2.13	2.14	0.14
	C 6 創造力	2.14	2.28	2.26	0.12
	C 7 発信力	2.26	2.38	2.40	0.13
	C 8 傾聴力	1.77	1.75	1.81	0.05
	C 9 柔軟性	1.76	1.81	1.80	0.04
	C 1 0 状況把握力	1.79	1.86	1.90	0.11
	C 1 1 規律性	1.56	1.57	1.67	0.11
	C 1 2 ストレスコントロール力	2.14	2.16	2.23	0.09
加重平均値の平均		1.92	1.99	2.03	
充足度	C13 喜び・いきがい	1.73	1.84	1.97	0.24
	C14 体力・健康の向上	1.51	1.63	1.95	0.44
	C15 心を許せる仲間の形成	1.44	1.53	1.59	0.15
	C16 追求・高める楽しさ	1.50	1.56	1.69	0.19
	C17 活動をより好きになる	1.71	1.71	1.75	0.04
	C18 学校生活への好影響	1.62	1.64	1.77	0.16
加重平均値の平均		1.81	1.88	1.95	

5. まとめと今後の課題

【表1~5】までの結果と考察から、部活動における健全育成への貢献と意義は示せたと考えられる。そして、どんな力を身につけたのかを【表1】の数値結果から判断すると、1点台の数値を示した主体性、傾聴力、柔軟性、状況把握力、規律性であるといえる。また、充足度への貢献は？となれば、「ほぼ全てに当てはまる」といえる。一方、もう少し育めるとよいと思われる力は、働きかけ力、実行力、課題発見力、計画力、創造力、発信力であるといえる。今後の部活動指導の課題として受け止めたい。

東京都研究部が本研究を進める中で直面した課題もある。まずは数値の統計処理ができていない不完全な調査であったこと、次に学校間比較や地域比較、各専門部比較などができなかつたことである。また、大規模な調査を進めていく上での難しさもあった。組織的かつ効率的な研究のためのメール会議は便利なようで十分には機能せず、小規模な作業グループを組み、顔をつけ合わせながらの方が効果的だった。研究を進めるために必要なスキルの問題、データ処理についての業者との打ち合わせ等、初めてのケースに研究部員が不慣れで、意見交換を十分にできなかつた難しさもあった。しかし、東京都のわずか12校の実態調査とはいえ、部活動の意義に光を当てるきっかけと傾向を見出したことには価値があり、東京都研究部としても課題研究に挑戦することが財産にもなった。本研究を契機として、研究の益々の発展や全国的な波及効果を期待している。

設問A【分類別質問】

東京都高体連研究部 課題研究 アンケート調査

◆この調査は平成31年度4月現在、高校3年生の人を対象として実施するものです。

◆該当する箇所の【丸数字】を○で囲んでご回答ください。

◆あなたの学校名を右に必ずご記入ください。【 】高等学校

設問0.性別は次のどれですか？

- ① 男性 ② 女性 ③ 明らかにしたくない

設問A1-1. 高校で所属している (いた) 部活動を教えてください。

- ① 運動部 (同好会含む) → 設問A1-2へ
② 文化部 (同好会含む) → 設問A1-3へ
③ 部活動に加入していない → 設問A1-4へ
④ 運動部 (同好会含む) と文化部 (同好会含む) の両方 (兼部) → 設問A1-2または3へ

設問A1-2. 設問A1-1で①運動部 (同好会含む) または④運動部 (同好会含む) と文化部 (同好会含む) の両方 (兼部) を選択した人のみお答えください。

所属する部活動種目を選択してください (運動部で兼部している場合は主たる所属先を答えてください)。

- ① 陸上競技 ② 体操競技 ③ バスケットボール ④ バレーボール ⑤ ソフトテニス
⑥ ソフトボール ⑦ スキー ⑧ スケート ⑨ 卓球 ⑩ 軟式野球 ⑪ 硬式野球
⑫ ラグビー ⑬ サッカー ⑭ ハンドボール ⑮ バドミントン ⑯ 柔道 ⑰ 剣道
⑱ 水泳 ⑲ 硬式テニス ⑳ その他 (自由記述)

→ 設問Bへ

設問A1-3. 設問A1-1で②文化部 (同好会含む) または④運動部 (同好会含む) と文化部 (同好会含む) の両方 (兼部) を選択した人のみお答えください (文化部で兼部している場合は主たる所属先を答えてください)。

- ① 演劇 ② 合唱 ③ 吹奏楽 ④ 器楽・管弦楽 ⑤ 日本音楽 ⑥ 吟詠剣詩舞 ⑦ 舞上芸能
⑧ マーチングバンド・バントワリング ⑨ 美術・工芸 ⑩ 書道 ⑪ 写真 ⑫ 放送 ⑬ 囲碁
⑭ 将棋 ⑮ 弁論 ⑯ 小倉百人一首かるた ⑰ 新聞 ⑱ 文芸 ⑲ 自然科学
⑳ その他 (自由記述)

→ 設問Bへ

設問A1-4. 設問A1-1で③部活動に加入していないを選択した人のみお答えください。

放課後をどのように過ごしていますか？

- 1) 校内での生徒会・委員会活動に熱心に取り組んでいる。
① 当てはまる ② やや当てはまる ③ あまり当てはまらない ④ 当てはまらない
2) 校外でのクラブ活動 (スポーツ・芸術等) に熱心に取り組んでいる。
① 当てはまる ② やや当てはまる ③ あまり当てはまらない ④ 当てはまらない
3) アルバイトに熱心に取り組んでいる。
① 当てはまる ② やや当てはまる ③ あまり当てはまらない ④ 当てはまらない
4) 塾・予備校に熱心に取り組んでいる。
① 当てはまる ② やや当てはまる ③ あまり当てはまらない ④ 当てはまらない

5) その他のことに熱心に取り組んでいる (自由記述)

- ① 当てはまる ② やや当てはまる ③ あまり当てはまらない ④ 当てはまらない

6) 何もやっていない

- ① 当てはまる ② やや当てはまる ③ あまり当てはまらない ④ 当てはまらない

→ 設問Cへ

設問B【①運動部 (同好会含む) ②文化部 (同好会含む) を選択した人のみお答えください】

設問B1. 部活動 (校外での活動) に熱心に取り組んでいますか？

- ① 当てはまる ② やや当てはまる ③ あまり当てはまらない ④ 当てはまらない

設問B2. 所属部活動における役割は次のどれですか？

- ① 部長や主将等 ② 副部長や副主将等 ③ 部員またはそれ以外の役職

設問B3. 高校部活動で実施していた種目 (内容) の経験年数は次のどれですか？

- ① 1~3年未満 ② 4~6年未満 ③ 6年以上

設問B4. 入部動機は次のどれですか？ (①~⑨の中から、複数選択可)

- ① 技能の向上のため ② 仲間づくりのため ③ 部活動に所属したかったため ④ 新しい挑戦のため
⑤ 部の目的が自分にあったため ⑥ 中学時代に行っていたため ⑦ 先輩に憧れたため
⑧ 体力向上のため ⑨ その他 (自由記述)

設問B5. あなた個人の目標は次のどれですか？ (①~⑦の中から、複数選択可)

- ① 人間的成長 ② 充実した生活 ③ 技能の向上 ④ 大会・発表会等での活躍
⑤ 体力向上 ⑥ 仲間づくり ⑦ その他 (自由記述)

設問B6. あなた個人の目標はどのくらい達成できましたか？

- ① 達成できた ② やや達成できた ③ あまり達成できていない ④ 達成できていない

設問B7. 部の目標は次のどれですか？ (①~⑥の中から、優先順位の高いものを2つまで選択可)

- ① 全国・関東大会入賞 ② 全国・関東大会出場 ③ 都大会ベスト〇〇 ④ 都大会出場
⑤ 大会参加 ⑥ その他 (自由記述)

※ 大会を発表会や作品展などに読み替えてもらっても大丈夫です。

設問B8. 部の目標はどのくらい達成できましたか？

- ① 達成できた ② やや達成できた ③ あまり達成できていない ④ 達成できていない

設問B9. 部活動で嫌だなと思うことは何ですか？ (①~⑯の中から、複数選択可)

- 休みの少なさ ② 休みの多さ ③ 練習の少なさ ④ 練習の多さ ⑤ 試合 (発表) の少なさ
⑥ 試合 (発表) の多さ ⑦ 朝練 ⑧ 上下関係 ⑨ 顧問との関係 ⑩ コーチとの関係 ⑪ 部の規律
⑫ 髪型の指定 ⑬ 部費や遠征費 ⑭ 用具費 ⑮ その他 (自由記述)
⑯ 特になし

以下の質問は、学期中の平日における普段の様子についてうかがいます。

注意1. 「授業開始前」「放課後」には、自主練習も部の公式練習やミーティング等も含めてお考え下さい。

設問B10. 平日の授業開始前に、平均して週に何日くらい部活動に参加していますか？

- ① 0日 ② 1日 ③ 2日 ④ 3日 ⑤ 4日 ⑥ 5日

設問B11. 平日の授業開始前に、平均して1日に何時間くらい部活動に参加していますか？

- ① 0時間 ② 0～1時間未満 ③ 1～2時間未満 ④ 2時間以上

設問B12. 平日の放課後に、平均して週に何日くらい部活動に参加していますか？

- 0日 ② 1日 ③ 2日 ④ 3日 ⑤ 4日 ⑥ 5日

設問B13. 平日の放課後に、平均して1日に何時間くらい部活動に参加していますか？

- ① 0時間 ② 0～1時間未満 ③ 1～2時間未満 ④ 2～3時間未満
⑤ 3～4時間未満 ⑥ 4時間以上

設問B14. 土日に、平均して週に何日くらい部活動に参加していますか？

- 0日 ② 1日 ③ 2日

設問B15. 土日に、平均して1日に何時間くらい部活動に参加していますか？

- ① 0時間 ② 0～1時間未満 ③ 1～2時間未満 ④ 2～3時間未満
⑤ 3～4時間未満 ⑥ 4～5時間未満 ⑦ 5時間以上

設問B16. 平日の練習量をどのように感じていますか？

- ① 多い ② やや多い ③ やや少ない ④ 少ない

設問B17. 平日の練習量にどのくらい満足していますか？

- ① 満足 ② やや満足 ③ やや不満 ④ 不満

設問B18. 平日の休養日回数をどのように感じていますか？

- ① 多い ② やや多い ③ やや少ない ④ 少ない

設問B19. 平日の休養日回数にどのくらい満足していますか？

- ① 満足 ② やや満足 ③ やや不満 ④ 不満

設問B20. 土日の練習量をどのように感じていますか？

- ① 多い ② やや多い ③ やや少ない ④ 少ない

設問B21. 土日の練習量にどのくらい満足していますか？

- ① 満足 ② やや満足 ③ やや不満 ④ 不満

設問B22. 土日の休養日回数をどのように感じていますか？

- ① 多い ② やや多い ③ やや少ない ④ 少ない

設問B23. 土日の休養日回数にどのくらい満足していますか？

- ① 満足 ② やや満足 ③ やや不満 ④ 不満

設問B24. 部活動の休養日をどのように過ごしていますか？(①～⑨の中から、複数選択可)

- ① 自主練習(技術・体力向上) ② 自主研究(振り返り) ③ 塾・勉強 ④ 他団体での活動
⑤ アルバイト ⑥ 生徒会・委員会 ⑦ 友達と遊ぶ ⑧ 休む
⑨ その他(自由記述)

設問C【共通質問】

◆以下の質問は①当てはまる ②やや当てはまる ③あまり当てはまらない ④当てはまらない
という回答で選択し、該当する箇所の【丸数字】を○で囲んでご回答ください。

設問C1. 物事に意欲的に取り組もうとしている。

- ①当てはまる ②やや当てはまる ③あまり当てはまらない ④当てはまらない

設問C2. 自分だけでなく、他者に働きかけながら物事に取り組むことができる。

- ①当てはまる ②やや当てはまる ③あまり当てはまらない ④当てはまらない

設問C3. 目標・目的を設定し、確実に行動することができる。

- ①当てはまる ②やや当てはまる ③あまり当てはまらない ④当てはまらない

設問C4. 状況を把握・分析し、問題点や課題点を明らかにすることができる。

- ①当てはまる ②やや当てはまる ③あまり当てはまらない ④当てはまらない

設問C5. 問題点や課題を解決するための方法や計画を納得いくまで考えることができる。

- ①当てはまる ②やや当てはまる ③あまり当てはまらない ④当てはまらない

設問C6. 新しいアイデアを生み出すことができる。

- ①当てはまる ②やや当てはまる ③あまり当てはまらない ④当てはまらない

設問C7. 自分の意見をわかりやすく伝えることができる。

- ①当てはまる ②やや当てはまる ③あまり当てはまらない ④当てはまらない

設問C8. 相手の意見を丁寧に聴くことができる。

- ①当てはまる ②やや当てはまる ③あまり当てはまらない ④当てはまらない

設問C9. 他者との意見の違いや立場の違いを認め、理解することができる。

- ①当てはまる ②やや当てはまる ③あまり当てはまらない ④当てはまらない

設問C10. 自分の状況と周囲の人々や物事との関連性を理解することができる。

- ①当てはまる ②やや当てはまる ③あまり当てはまらない ④当てはまらない

設問C11. 社会のルールや人との約束を守ることができる。

- ①当てはまる ②やや当てはまる ③あまり当てはまらない ④当てはまらない

設問C12. ストレスをうまくコントロールすることができる。

- ①当てはまる ②やや当てはまる ③あまり当てはまらない ④当てはまらない

◆以下の設問中の「活動」という言葉には、「部活動、校外活動、生徒会・委員会、アルバイト、その他」を含めています。そうした「活動」に未加入の人は、授業や学校生活と置き換えてお答えください。

設問C13. 「活動」が喜び・生きがいである。

- ①当てはまる ②やや当てはまる ③あまり当てはまらない ④当てはまらない

設問C14. 「活動」を通して、体力・健康が身についた。

- ①当てはまる ②やや当てはまる ③あまり当てはまらない ④当てはまらない

設問C15. 「活動」を通して、心を許せる仲間ができた。

- ①当てはまる ②やや当てはまる ③あまり当てはまらない ④当てはまらない

設問C16. 「活動」を通して、好きなことを追求したり、高めたりする楽しさを味わった。

- ①当てはまる ②やや当てはまる ③あまり当てはまらない ④当てはまらない

設問C17. 「活動」を通して、行なっている活動がより好きになった。

- ①当てはまる ②やや当てはまる ③あまり当てはまらない ④当てはまらない

設問C18. 「活動」によって、明るく充実した学校生活を過ごすことができた。

- ①当てはまる ②やや当てはまる ③あまり当てはまらない ④当てはまらない

アンケートは以上です。ご協力ありがとうございました。

- i 千葉県の課題研究：運動部活動と社会人育成～社会人基礎力をはじめとする社会のニーズと運動部活動の方向性～（平成 22 年度兵庫県大会）今日、企業や社会が求める即戦力となりえる人材の育成は教育界に託されていると言ってよい。その中で部活動指導が大きな力となっていることは私たちの実感として感じているところである。「運動部活動による人間育成」の意義づけを進めるためには、将来活躍する舞台である「社会のニーズ」との関連付けが必要であると考え、「人間育成」に対する評価の指標として経済産業省が提唱する「社会人基礎力」を用いて調査を行うことにした。この調査では、運動部加入生徒と未加入生徒（ここに文化部を含める）とで比較した。
- ii 福井県内調査：平成 22 年度の千葉県の課題研究発表を受け、県内 3 つの校種の違う学校で調査をした。対象は指導者 58 名（回収分）と生徒 706 名（回収分）となった。
- iii 運動部活動の在り方に関する調査研究報告～中学生・高校生のスポーツ活動に関する調査研究協力者会議～（平 9 文部科学省）（以下、要旨一部抜粋）運動部活動の意義としては、次のようなことが考えられる。
- (1) 喜びと生きがいの場 (2) 生涯にわたってスポーツに親しむための基礎づくり
(3) 体力の向上と健康の増進 (4) 豊かな人間性の育成 (5) 明るく充実した学校生活の展開
- 運動部活動は、学級や学年を離れた集団の中で生徒たちが、互いに認め合い、励まし合い、汗を流し、協力し合い、高め合いながら、自発的・自主的に活動を展開するものであり、生徒にとって、友情や連帯感をはぐくみ、自己の存在や責任を見つめ、努力や忍耐、スポーツマンシップ、思いやり、集団生活のルール等を身に付ける場となっている。それは、成就感や達成感、時には挫折感も味わう中で、各生徒が、自ら学び、考え、判断し、行動し、よりよく問題を解決する能力をはぐくみ、また、自らを律しつつ他人を認め協調する心を養い、人間として成長していくものであり、まさに中央教育審議会第一次答申の示す「豊かな人間性」をはぐくむ機会であると言える。
- 言い換えれば、運動部活動は、生涯にわたってたくましく生きるための体力や健康の基礎を培うことと相まって、生徒の「生きる力」の育成に大きな意義を有している。
- iv 調査対象者の抽出については、部活動の意義を最も実感していると思われる 3 年生を対象とすることとした。そして、東京都内の東西南北の所在位置関係、都立・私立・国立等の設置者、普通科・商業科・工業科など様々な条件を網羅してバランスよく調査するつもりで検討していた。しかしながら、アンケート作成の難航や業者選定、アンケート実施や実施期間への理解・協力などの諸課題があった。それらを限られたスケジュールの中で解決することが求められた結果、常任委員勤務校での実施が妥当であろうという結論に至った。
- v 社会人基礎力とは、「前に踏み出す力」、「考え抜く力」、「チームで働く力」の 3 つの能力（12 の能力要素）から構成されており、「職場や地域社会で多様な人々と仕事をしていくために必要な基礎的な力」として、経済産業省が 2006 年に提唱。「人生 100 年時代」や「第四次産業革命」の下で、2006 年に発表した「社会人基礎力（＝3 の能力／12 の能力要素）」はむしろその重要性を増しており、有効。一方で、「人生 100 年時代」ならではの切り口、視点が必要となってきたとして、平成 29 年度に開催した「我が国産業における人材力強化に向けた研究会」において、これまで以上に長くなる個人の企業・組織・社会との関わりの中で、ライフステージの各段階で活躍し続けるために求められる力を「人生 100 年時代の社会人基礎力」と新たに定義しました。新たに加わった 3 つの視点は、1) 何を学ぶか、2) どのように学ぶか、3) どう活躍するか、である。
- vi 部活動の種目選択①～⑳の設定経緯：運動部は、東京都高等学校体育連盟HP内に記載のある各競技別問い合わせの中から 19 を抽出し、抽出しきれなかったものを 20 番目その他とした。また、文化部は平成 34 年度第 46 回全国高等学校総合文化祭の開催の内定を参照し、開催部門と称された種目 19 部門を採用し、その他を 20 番目とした。集計をしてみると文化部のその他については、各校で様々な名称が混在しており、分類することが難しい現状であった。

第54回(滋賀)全国高等学校体育連盟研究大会 課題研究計画書:2019.10.31

ふりがな	まりこ ともあき	所属	東京都高体連研究部
申請者氏名	鞠子 智秋		
申請者連絡先	〒204-0022 東京都清瀬市松山3-1-56 都立清瀬高等学校内 東京都高体連研究部 鞠子智秋 電話 042-492-3500 Fax 042-491-9491 鞠子 智秋 <Tomoaki_Mariko@member.metro.tokyo.jp>		
	〒190-0022 東京都立川市錦町2-13-5 都立立川高等学校内 東京都高体連研究部 委員長 田中康之 電話 042-524-8195 Fax 042-527-9906 田中 康之 <Yasuyuki_Tanaka@member.metro.tokyo.jp>		
研究テーマ	運動部活動が育むものとは何か～部活動の存在意義についての調査～		
どのような課題に対応した研究であるかkey word の形で示すこと			
key word	部活動意義 健全育成の実態 教育的価値 社会人基礎力 充足度 見える化		
研究目的(何を、どこまで明らかにしようとするのか、焦点をしぼり、具体的に記入すること。)			
<p>東京都内の高等学校にアンケート調査を実施する。(できれば、都立、私立どちらも対象としたい)</p> <p>東京都の部活動が種目技術の他に、健全育成の観点において育んでいるものが一体何であるのか、実態を調査する。</p> <p>調査対象は、東京都内の高等学校に所属する3年生とする。運動部・文化部・未加入の生徒で構成し、東京の実態を把握できるような調査対象設定をする。</p> <p>健全育成の観点においては、千葉県が先行研究をした『運動部活動と社会人育成』～社会人基礎力をはじめとする社会のニーズと運動部活動の方向性～で取り上げた(旧「社会人基礎力」(経済産業省)現「人生100年時代の社会人基礎力」2017年度改訂)研究、および運動部活動の在り方に関する調査研究報告～中学生・高校生のスポーツ活動に関する調査研究協力者会議～(平9文部科学省)を基にしなから、質問項目を作成する。</p> <p>この調査研究において明らかにしたいこと～</p> <p>部活動を通して健全育成がどのように行われ、社会に出て通用する力を身につけているのかを把握すること。それによって、東京都の部活動が育んでいる教育的価値や財産を明らかにする。一方で、育みきれていない課題となる要素の把握など、今後の部活動の存在意義を問い直す機会としたい。</p>			
研究計画・方法(研究目的を達成するための研究計画と方法について研究経費との関連も含めて具体的に記入すること。)			
<p>2018.12月 質問内容について千葉県(先行研究)、有識者からの情報交換や収集</p> <p>2019.1月 質問項目の叩き台作成</p> <p>2月 東京都研究大会での中間発表、会場内でのアンケート項目についての意見集約</p> <p>4～6月 アンケート項目の決定・膨大なアンケート実施となるので、アンケート集計他依頼できる業者の選定</p> <p>6～7月 アンケート実施・回収</p> <p>6～8月 データ集計と解析(業者とのやりとり)</p> <p>8～10月 東京都研究部によるアンケート結果の考察・原稿まとめ</p> <p>◇研究経費は、東京都高体連の費用を活用する。予算は70～80万円とする。</p> <p>業者選定の際には、2社から見積もりを算出してもらい、決定する。</p> <p>アンケート用紙代、印刷代、郵送費、業者依頼費用は業者との契約に盛り込まれるよう依頼する。</p> <p>各会議場所費用、会議交通費等の支出が見込まれる。</p>			
研究の特色			
<ul style="list-style-type: none"> ・東京都の部活動所属人数の多いことを有効活用したこと ・「部活動意義」を見える化、「健全育成の実態」を見える化したこと ・今後の指標となる考察や知見を得ることで『できる化』の波及効果(全国的な調査の拡大)を期待したこと 			

＜研究報告＞

「東京都高校体育連盟研究部 滋賀県大会に向けた取り組み」

東京高等学校体育連盟研究部

【課題研究の取り組み、発表までの経過】

令和元年度全国高体連研究大会において、東京都高等学校体育連盟研究部は運動部活動の存在意義についての調査の結果を発表しました。この度の発表の目的は、東京都の部活動を「見える化」し、今後も持続・発展していくために、「部活動が有益である」というエビデンスを示すことでした。そのために臨時の常任委員会を開催し、調査内容の吟味、調査票の作成、調査対象校の検討、調査結果集計、結果分析考察と手順を踏み、この度の全国高等学校体育連盟研究大会の発表に至りました。発表までの取り組みは、鞠子智秋先生（東京都立清瀬高等学校）が中心となり、メールでの情報交換や臨時の常任委員会での意見交換が行われ、研究部が一体となり、部活動の存在意義の追究・整理をしました。今後さらに研究部が組織的な協力体制をつくり、研究活動を発展させるものと思います。各専門部とともに連携をとりながら研究部がますます活性化されるよう、今後ともご協力の程、宜しくお願ひ致します。以下の通り、東京都高等学校体育連盟研究部の活動経過を報告いたします。

2019年 4月16日、常任委員会、日程確認

22日、課題研究作業部会①（池袋 レンタルルーム）質問項目の検討

5月 2日、質問項目の検討、プレテストの検討（池袋 レンタルルーム）

3日～15日、質問項目の指導と助言（長沼氏、内田氏）

23日、調査項目の検討、業者選定、プレテスト報告（筑波大学附属高校）

調査依頼・分析に向けた準備、予算の確認、協力校の選定

6月 上旬、質問項目が決定

6月13日、ムサシ・エービーシー担当との打ち合わせ

7月 2日、進捗状況の確認と今後の予定（筑波大学附属高校）

8月10日、データの共有と今後の進め方（筑波大学附属高校）

9月17日、データ分析と考察について（筑波大学附属高校）

10月 1日、データ分析と考察について（筑波大学附属高校）

10月10日、全国大会紀要原稿作成にむけて（筑波大学附属高校）

10月17日、全国大会紀要原稿作成にむけて（筑波大学附属高校）

12月 9日、発表資料（パワーポイント）、確認、修正

2020年 1月16日、全国高等学校体育連盟研究大会（滋賀県）での発表

【全国研究大会発表、その後】

全国高校体育連盟研究大会での発表後の質疑応答では、統計学による分析方法を用いていないことが指摘され、東京都高校体育連盟研究部は調査資料について、検定を用いた分析を行いました。資料の統計処理は、木村元彦さん（専修大学）にご協力いただき、「部活動が育むものは何か」、「部活動の指導の在り方について」の検討を試みました。

<研究報告> 「部活動の存在意義についての東京都の調査研究、統計分析」

都立立川高等学校 田中康之
専修大学 木村元彦

【研究目的】

研究の目的は 部活動の参加実態とその意義を調査し、部活動に内在する意義を『見える化』する。さらに、部活動経験者がどのような活動を通し、どのような力をつけているのかを明らかにすることで、よりよい部活動指導の環境づくりへ提言する。

【データの分析方法】

*対象者 東京都内 12 校（常任委員校）に在籍する 3 年生を対象とした。

*実施日 6 月 24 日～7 月 15 日

*統計処理

各測定項目における社会人基礎力の差は、一元配置分散分析を行い、F 値に有意差がみられた場合、Tukey-Kramer 法による多重比較を行った。データ分析には、統計解析ソフト R version 3.5.0 を使用した。いずれの場合も、危険率 5% 未満をもって有意差ありとした。

本研究を実施するにあたり、対象者には研究データとして用いる可能性のあることを書面により説明し、同意が得られた対象者が本研究に参加した。なお本研究は、高校体育連盟研究部常任委員会の承認を得て実施した。対象者は高校生 2,234 名であった。アンケート用紙の項目に空白や、単一回答のところを複数回答しているデータは欠損値として扱った。

【分析項目】以下のアンケート調査項目について分析した。

- 部活動加入群と部活動に加入していない群の社会人基礎力の比較
- 「活動」に関する充足度と社会人基礎力合計得点の関係
 - ・「活動」が喜び・生きがいである（設問 C13）
 - ・「活動」を通して、体力・健康が身についた（設問 C14）
 - ・「活動」を通して、心を許せる仲間ができた（設問 C15）
 - ・「活動」を通して、好きなことを追求したり、高めたりする楽しさを味わった（設問 C16）
 - ・「活動」を通して、行っている活動がより好きになった（設問 C17）
 - ・「活動」によって、明るく充実した学校生活を過ごすことができた（設問 C18）
 - ・ 部活動（校外での活動）に熱心に取り組んでいますか？（設問 B1）

【結果】

- 部活動加入群と部活動に加入していない群の社会人基礎力の比較

所属部活動	1.運動部(同好会含む)			2.文化部(同好会含む)		3.部活動に加入していない		分散分析		多重比較
	n	1325	671	518	F値	p				
前に踏み出す力	10.31 ± 1.48	10.34 ± 1.28	9.78 ± 2.13	24.04	0.000	① = ② > ③				
考え抜く力	10.27 ± 1.49	10.18 ± 1.37	9.88 ± 2.02	11.29	0.000	① = ② > ③				
チームで働く力(チームワーク)	20.49 ± 2.39	20.29 ± 2.34	20.14 ± 3.10	3.96	0.019	① > ② = ③				
社会人基礎力合計	41.07 ± 4.38	40.82 ± 3.80	39.80 ± 6.09	14.00	0.000	① = ② > ③				
平均値 ± 標準偏差										

* 多重比較 (① 運動部 ② 文化部 ③ 部活動に加入していない)

⇒・「前に踏み出す力」「考え抜く力」は運動部、文化部ともに部活動に加入していない者に比べ、有意に高かった。

・「チームで働く力」は運動部が文化部や部活動に加入していない者に比べ、有意に高かった。

・「社会人基礎力」は運動部、文化部ともに部活動に加入していない者に比べ、有意に高かった。

○「活動」に関する充足度と社会人基礎力合計得点の関係

・「活動」が喜び・生きがいである（設問C13）

「設問C13. 「活動」が喜び・生きがいである。」に関する充足度と社会人基礎力合計点との関係

所属部活動	1. 当てはまる				分散分析		多重比較
	2. やや当てはまる	3. あまり当てはまらない	4. 当てはまらない	F値	p		
n	472	507	147	50			
運動部（同好会含む） 平均値±標準偏差	42.55 ± 3.48	40.42 ± 3.57	40.37 ± 4.24	36.14 ± 9.16	52.13	0.000	① > ② = ③ > ④

* 多重比較 ①あてはまる②ややあてはまる③あまりあてはまらない④当てはまらない
⇒「活動」が喜び・生きがいであるに「当てはまる」と解答した者ほど、社会人基礎力が有意に高かった。

・「活動」を通して、体力・健康が身についた（設問C14）

・「活動」を通して、心を許せる仲間ができた（設問C15）

「設問C14. 「活動」を通して、体力・健康が身についた。」に関する充足度と社会人基礎力合計点との関係

所属部活動	1. 当てはまる				分散分析		多重比較
	2. やや当てはまる	3. あまり当てはまらない	4. 当てはまらない	F値	p		
n	713	386	56	21			
運動部（同好会含む） 平均値±標準偏差	42.10 ± 3.53	39.79 ± 3.90	40.38 ± 5.43	32.52 ± 10.21	61.82	0.000	① > ③ = ② > ④

「設問C15. 「活動」を通して、心を許せる仲間ができた。」に関する充足度と社会人基礎力合計点との関係

所属部活動	1. 当てはまる				分散分析		多重比較
	2. やや当てはまる	3. あまり当てはまらない	4. 当てはまらない	F値	p		
n	722	368	65	21			
運動部（同好会含む） 平均値±標準偏差	42.07 ± 3.57	39.60 ± 4.15	39.89 ± 5.43	36.90 ± 9.99	9.53	0.000	① > ③ = ② = ④

* 多重比較 ①あてはまる②ややあてはまる③あまりあてはまらない④当てはまらない
⇒『「活動」を通して、体力・健康が身についた、「活動」を通して、心を許せる仲間ができた』に、「当てはまる」と解答した者ほど、社会人基礎力が有意に高かった。

・「活動」を通して、好きなことを追求したり、高めたりする楽しさを味わった（設問C16）

・「活動」を通して、行っている活動がより好きになった（設問C17）

「設問C16. 「活動」を通して、好きなことを追求したり、高めたりする楽しさを味わった。」に関する充足度と社会人基礎力合計点との関係

所属部活動	1. 当てはまる 2. やや当てはまる 3. あまり当てはまらない 4. 当てはまらない				分散分析		多重比較
					F値	p	
n	641	417	91	27			
運動部（同好会含む） 平均値±標準偏差	42.32 ± 3.62	39.77 ± 3.42	40.45 ± 5.26	34.15 ± 10.00	13.96	0.000	① > ③ = ② = ④

「設問C17. 「活動」を通して、行なっている活動がより好きになった。」に関する充足度と社会人基礎力合計点との関係

所属部活動	1. 当てはまる 2. やや当てはまる 3. あまり当てはまらない 4. 当てはまらない				分散分析		多重比較
					F値	p	
n	647	462	125	42			
運動部（同好会含む） 平均値±標準偏差	42.45 ± 3.75	40.00 ± 3.25	41.10 ± 4.48	35.33 ± 9.14	16.57	0.000	① > ③ = ② = ④

* 多重比較 ①あてはまる②ややあてはまる③あまりあてはまらない④当てはまらない
 ⇒ 『「活動」を通して、好きなことを追求したり、高めたりする楽しさを味わった。
 「活動」を通して、行なっている活動がより好きになった』に、
 「当てはまる」と解答した者ほど、社会人基礎力が有意に高かった。

- ・「活動によって、明るく充実した学校生活を過ごすことができた（設問C18）
- ・部活動（校外での活動）に熱心に取り組んでいますか？（設問B1）

「設問C18. 「活動」によって、明るく充実した学校生活を過ごすことができた。」に関する充足度と社会人基礎力合計点との関係

所属部活動	1. 当てはまる 2. やや当てはまる 3. あまり当てはまらない 4. 当てはまらない				分散分析		多重比較
					F値	p	
n	599	457	86	34			
運動部（同好会含む） 平均値±標準偏差	42.26 ± 3.50	40.06 ± 3.59	41.03 ± 4.24	34.38 ± 10.74	15.87	0.000	① > ③ = ② = ④

「設問B1. 部活動（校外での活動）に熱心に取り組んでいますか？」の解答と社会人基礎力合計点との関係

所属部活動	1. 当てはまる 2. やや当てはまる 3. あまり当てはまらない 4. 当てはまらない				分散分析		多重比較
					F値	p	
n	790	280	77	29			
運動部（同好会含む） 平均値±標準偏差	41.60 ± 3.91	40.46 ± 3.80	39.84 ± 5.29	36.52 ± 8.71	19.80	0.000	① > ② = ③ > ④

* 多重比較 ①あてはまる②ややあてはまる③あまりあてはまらない④当てはまらない
 ⇒ 『「活動」によって、明るく充実した学校生活を過ごすことができた、
 部活動（校外での活動）に熱心に取り組んでいますか？』に、
 「当てはまる」と解答した者ほど、社会人基礎力が有意に高かった。

【結論】部活動が育むものは何か

部活動に加入する生徒は、『社会人基礎力』を育む。部活動に加入して取り組む生徒は「前に踏み出す力」「考え抜く力」を育み、「社会人基礎力」を高める。運動部活動において活動する生徒は「チームで働く力」を育むことがわかった。

【運動部活動の指導の在り方について】

生徒が部活動において「好きなことを追究したり、高めたりする、楽しさを味あわせ、心を許せる仲間を作り、部活動が好きになる」魅力的な指導と、生徒が部活動で「体力・健康を身につける」活力を引き出す指導、さらに生徒が部活動に「喜び・生きがいを感じて熱心に取り組む、明るく充実した学校生活を過ごすことができる」充実感をもたらす指導が、運動部活動の指導の在り方として大切であると考えられる。

東京都高等学校体育連盟「研究部」規約

第一章 名称及び事務局

- 第1条 本研究部（以下「本部」という）は、東京都高等学校体育連盟研究部と称する。
第2条 本部の事務局は、会長指定の高等学校におく。

第二章 目的

- 第3条 本部は、東京都高等学校体育連盟が教育活動の一環として実施する体育・スポーツ活動に関する調査並びに研究を行い、その発展に寄与することを目的とする。

第三章 事業

- 第4条 本部は、前条の目的を達成するために、次の事業を行う。
1) 競技力向上、普及振興、安全対策に関する調査研究
2) 研究会並びに講習会の開催
3) その他本部の目的達成に必要な事項

第四章 組織及び委員

- 第5条 本部は、各競技専門部及び定通制部から選出された委員を以て組織する。
委員の任期は、2カ年とし、再任は妨げない。

第五章 役員

- 第6条 本部に下記の役員をおく。
1) 部長 1名
2) 副部長 2名（1名は委員長及び本連盟の常任理事を兼ねる）
3) 常任委員 10名
4) 監事 2名

- 第7条 役員は、委員会において選出する。

- 第8条 役員の仕事

- 1) 部長 部長は、本部を代表し、会務を統括する。
2) 副部長 副部長は、部長を補佐し、部長事故ある時はその職務を代行する。
委員長を兼ねる副部長は、会務を執行する。
3) 常任委員 常任委員は、会務の企画、運営にあたる。
4) 監事 監事は、本部の会計を監査する。

- 第9条 役員の仕事は、2カ年とし、再任は妨げない。補充によって就任した場合は、前任者の残任期間とする。

第六章 会議

- 第10条 委員会は、委員を以て構成し、必要事項を審議決定する。

- 第11条 常任委員会は、役員を以て構成する。常任委員会は、部長が招集し、必要事項を審議する。なお、緊急事項が生じた場合は、常任委員会で審議決定し執行する。
執行内容については、委員会に報告しなければならない。

第七章 会計

- 第12条 本部の経費は、本連盟の一般会計・研究部費、その他を以てこれにあてる。

- 第13条 本部の会計は、毎年4月1日に始まり、翌年3月31日に終わる。

第八章 附則

- 第14条 本規約は、本連盟常任理事会の議決を得て変更することができる。

- 第15条 本規約は、平成13年11月16日より施行する。
(経過) 1. 平成19年4月26日 第一次改定
2. 平成21年4月18日 第二次改定

役員を選出に関する細則

- 1) 部長は、都内高等学校長より選出する。
2) 副部長2名（1名は委員長及び常任理事を兼ねる）は、委員の互選により選出する。
3) 常任委員は、委員の互選により10名を選出する。
(各分科会代表3名、団体種目系3名、個人種目系2名、武道系2名)
4) 委員は、各専門部・定通制部の互選とする。(各専門部より若干名、定通制部より1名)
5) 監事は、委員の互選とする。

東京都高等学校体育連盟

< 研究部 >

組織と名簿

令和元年

2019年度

役職名	氏名	専門部	種別	勤務校	〒	所在地	電話	FAX	研究部役職	
部長	庄司一也	体操女子	個人	都立晴海総合	104-0053	中央区晴海1-2-1	03-3531-5021	03-3531-5024	都高体連副会長	保健体育
副部長 (委員長)	田中康之	サッカー	団体	都立立川	190-0022	立川市錦町2-13-5	042-524-8195	042-527-9906	都高体連常任理事	保健体育
副部長 (副委員長)	中塚義実	サッカー	団体	筑波大学附属	112-0012	文京区大塚1-9-1	03-3941-7176	03-3943-0848	副委員長	保健体育
常任委員	阿部一臣	ソフトテニス女子	個人	都立高島	175-0082	東京都板橋区高島平3-7-1	03-3938-3125	03-338-4057	第1分科会チーフ	英語
〃	堀越和彦	自転車競技	個人	日本学園	156-0043	世田谷区松原2-7-34	03-3322-6331	03-3327-8987	第2分科会チーフ	英語
〃	柳澤左門	ボート	団体	都立日本橋	131-0041	墨田区八広1-28-21	03-3617-1811	03-3612-5396	第3分科会チーフ	保健体育
〃	鞠子智秋	サッカー	団体	都立清瀬	204-0022	清瀬市松山3-1-56	042-492-3500	042-491-9491		保健体育
〃	奥 正克	ハンドボール	団体	都立小金井北	184-0003	小金井市緑町4-1-1	042-385-2611	042-382-9522		地歴
〃	高倉千草	バレーボール女子	団体	都立六本木	106-0032	港区六本木6-16-36	03-5411-7327	03-5411-7367		保健体育
〃	征矢範子	陸上競技男子	個人	筑波大学附属	112-0012	文京区大塚1-9-1	03-3941-7176	03-3943-0848		保健体育
〃	秋月 隼	弓道	武道	都立美原	143-0012	大田区大森東1-33-1	03-3764-3883	03-3764-3854		理科(化学)
〃	塩田伸隆	空手道	武道	都立府中東	183-0012	府中市押立町4-21	042-365-7611	042-369-8506		理科(化学)
〃	眞鍋 健治	少林寺拳法	武道	桜丘中学・高等学校	114-8554	北区滝野川1-51-12	03-3910-6161	03-3949-0677		保健体育
会計	新井理仁	ソフトボール	団体	都立第一商業	150-0035	渋谷区鉢山町8-1	03-3463-2606	03-3463-2050		英語
監事	牧野飛人	軟式野球	団体	私立中央大学高	112-8551	文京区春日1-13-27	03-3814-5275	03-3814-5278		社会
〃	倉田あゆみ	卓球女子	個人	都立若葉総合	206-0822	稲城市坂浜1434-3	042-350-0300	042-350-0303		国語
14名 (競技 第一分科会)	氏名	専門部	種別	勤務校	〒	所在地	電話	FAX	前年度役職	
	征矢範子	陸上競技男子	個人	筑波大学附属	112-0012	文京区大塚1-9-1	03-3941-7176	03-3943-0848	常任委員	保健体育
	曾根原龍大	陸上競技男子	個人	日本大学豊山	112-0012	文京区大塚5-40-10	03-3943-2161	03-3943-1991		数学
	黒須崇仁	陸上競技女子	個人	江戸川女子	133-8552	江戸川区東小岩5-22-1	03-3659-1241	03-3659-4994		保健体育
	笹川浩司	陸上競技女子	個人	都立板橋	173-0035	板橋区大谷口1-54-1	03-3973-3150	03-3959-6591		保健体育
	杉浦翔太	ボクシング	武道	都立隅田工業	135-0004	江東区森下5-1-7	03-3631-4928	03-3846-6683		工業(電気)
	高倉千草	バレーボール女子	団体	都立六本木	106-0032	港区六本木6-16-36	03-5411-7327	03-5411-7367	常任委員	保健体育
	阿部一臣	ソフトテニス女子	個人	都立高島	175-0082	東京都板橋区高島平3-7-1	03-3938-3125	03-338-4057	第1分科会チーフ	英語
	古志野潤哉	体操男子	個人	成城	162-8670	新宿区原町3-87	03-3341-6141	03-3341-3165		保健体育
	新井理仁	ソフトボール	団体	都立第一商業	150-0035	渋谷区鉢山町8-1	03-3463-2606	03-3463-2050	会計	英語
	奥 正克	ハンドボール	団体	都立小金井北	184-0003	小金井市緑町4-1-1	042-385-2611	042-382-9522	常任委員	地歴
	田中康之	サッカー	団体	都立立川	190-0022	立川市錦町2-13-5	042-524-8195	042-527-9906	委員長	保健体育
	牧野飛人	軟式野球	団体	私立中央大学高	112-8551	文京区春日1-13-27	03-3814-5275	03-3814-5278	監事	社会
	須郷一史	クエイトリフティング	個人	千代田区立九段中等教育学校	102-0073	千代田区九段北2-2-1	03-3263-7190	03-3288-3499		地歴
青木茉奈美	バスケボール女子	団体	昭和第一学園	190-0003	東京都立川市栄町2-45-8	042-536-1611	042-537-6880		保健体育	
13名 (健康と安全 第二分科会)	氏名	専門部	種別	勤務校	〒	所在地	電話	FAX		教科
	野中 純	ホッケー	団体	早稲田高等学院	177-0044	練馬区上石神井3-31-1	03-5991-4151	03-3928-4110		数学
	佐藤貴文	水泳	個人	都立三田	108-0073	東京都港区三田1-4-46	03-3453-1991	03-3453-2899		保健体育
	眞鍋健治	少林寺拳法	武道	桜丘中学・高等学校	114-8554	北区滝野川1-51-12	03-3910-6161	03-3949-0677	常任委員	保健体育
	今井 純	男子バスケットボール	団体	大東文化大学第一	175-8571	東京都板橋区高島平1-9-1	03-5399-7890	03-5399-7891		地歴公民科
	糸園容子	アーチェリー	個人	東京都立第四商業	176-0021	練馬区貫井3丁目4番19号	03-3990-4221	03-3926-7040		英語
	堀越和彦	自転車競技	個人	日本学園	156-0043	世田谷区松原2-7-34	03-3322-6331	03-3327-8987	第2分科会チーフ	英語
	田中玄太	卓球男子	個人	日本大学豊山	112-0012	文京区大塚5-40-10	03-3943-2161	03-3943-1991		情報
	倉田あゆみ	卓球女子	個人	都立若葉総合	206-0822	稲城市坂浜1434-3	042-350-0300	042-350-0303	監事	国語
	高田丈裕	レスリング	武道	日本工業大学駒場	153-8508	目黒区駒場1-35-32	03-3467-2130	03-3467-2165		保健体育
	安海友貴	フencing	武道	都立王子総合	114-0023	北区滝野川3-54-7	03-3576-0602	03-3576-0615		保健体育
	秋月 隼	弓道	武道	都立美原	143-0012	大田区大森東1-33-1	03-3764-3883	03-3764-3854	常任委員	理科(化学)
	塩田伸隆	空手道	武道	都立府中東	183-0012	府中市押立町4-21	042-365-7611	042-369-8506	常任委員	理科(化学)
六車健吉	ライフル射撃	武道	明治大学付属中野	164-0003	中野区東中野3-3-4	03-3362-8704	03-3368-3113		芸術(美術)	
19名 (部活動の 活性化) 普及	氏名	専門部	種別	勤務校	〒	所在地	電話	FAX		教科
	中島弘貴	テニス	個人	富士見	176-0023	練馬区中村北4-8-26	03-3999-2136	03-3999-2129		社会
	平野真央	体操女子	個人	大妻女子	102-8357	千代田区三番町12	03-5275-6057	03-5275-6093		保健体育
	稲井祥紀	ソフトテニス男子	個人	都立豊多摩	166-0016	杉並区成田西2-6-18	03-3393-1331	03-3398-3746		数学
	徳田泰宜	バレーボール男子	団体	日本大学櫻丘	156-0045	世田谷区桜上水3-24-22	03-5317-9300	03-3304-4328		保健体育
	伊賀章子	スケート	個人	法政大学	181-0002	三鷹市牟礼4-3-1	0422-79-6230	0422-79-6261		英語
	鞠子智秋	サッカー	団体	都立清瀬	204-0022	清瀬市松山3-1-56	042-492-3500	042-491-9491	常任委員	保健体育
	中塚義実	サッカー	団体	筑波大学附属	112-0012	文京区大塚1-9-1	03-3941-7176	03-3943-0848	副委員長	保健体育
	中村豪介	アメリカンフットボール	団体	麻布	106-0046	港区元麻布2-3-29	03-3446-6541	03-3444-2337		保健体育
	君塚善宏	柔道	武道	巢鴨	170-0012	豊島区上池袋1-21-1	03-3918-5311	03-3918-5305		保健体育
	松坂輝夫	剣道	武道	都立墨田川	131-0032	墨田区東向島3-34-14	03-3611-2125	03-3612-6123		英語
	児玉朋隼	相撲	武道	明治大学付属中野	164-0003	中野区東中野3-3-4	03-3362-8704	03-3368-3113		英語
	田中鶏郎	なぎなた	武道	文化学園大学杉並	166-0004	杉並区阿佐谷南3-48-16	03-3392-6636	03-3391-8272		数学
	柳澤左門	ボート	団体	都立日本橋	131-0041	墨田区八広1-28-21	03-3617-1811	03-3612-5396	第3分科会チーフ	国語
	櫻井幹久	登山	団体	安田学園	130-8615	墨田区横網2-2-25	03-3624-2666	03-3624-2668		地歴
	渡部絹江	テアターディング	団体	都立文京	170-0001	豊島区西巣鴨1-1-5	03-3910-8231	03-3915-9886		保健体育
	津田弘毅	バドミントン	個人	都立調布南	182-0025	東京都調布市多摩川6-2-1	042-483-0765	042-483-7091		理科
	滝田裕幸	スキー	個人	麻布	106-0046	港区元麻布2-3-29	03-3446-6541	03-3444-2337		英語
	田草川直希	ラグビー	団体	都立墨田工業	135-0004	江東区森下5-1-7	03-3631-4928	03-3846-6638		数学
工藤慶之	少林寺拳法	武道	帝京	173-8555	板橋区稲荷台27-1	03-3963-6385	03-3963-2430		数学	

令和2年度 東京都高等学校体育連盟 研究部 調査用紙

専門部名

--

◎令和元年度・令和2年度の2年任期を原則とし、任期の継続をお願いします。
 なお、研究部員は、専門部から複数名出していただくことも可能です。
 ※印欄の内容は、委員名簿には掲載しませんが、連絡に使用させていただきますので、是非ご記入下さい。
 ※E-mailでの連絡体制にご協力ください。

研究部員	よみがな		携帯電話番号 ※	
	氏名		メールアドレス ※	
	勤務先 学校名		E-mail アドレス ※	
	勤務先〒	勤務先 住所	(担当教科)	
	勤務先 電話番号		勤務先Fax	
	所属希望 分科会	第一希望に◎ 第二希望に○	・第1分科会(競技力向上) ・第2分科会(健康安全) ・第3分科会(部活動活性化)	
研究活動	都高体連研究活動 (研究発表など)に協力いただいた専門部	フェンシング、空手道、剣道、柔道、ホッケー、少林寺拳法、弓道、相撲、サッカー、男子バレーボール、男子バスケットボール、女子バスケットボール、ラグビー、アメリカンフットボール、ソフトボール、ハンドボール、ホッケー、軟式野球、テニス、アーチェリー、陸上競技、水泳、バドミントン、スケート、体操男子、ポート		
	令和2年度以降に、ご協力をお願いしたい専門部	バレーボール女子、スキー、ウェイトリフティング、自転車競技、卓球女子、レスリング、ライフル射撃、体操女子、ソフトテニス男子、ソフトテニス女子、なぎなた、登山		
	ご協力(専門部として研究発表)の予定	令和2年度	令和3年度	令和4年度 ※○印を
専門部報告	(競技力向上の取組み)			
	(健康安全面での取組み)			
	(部活動活性化＝普及活動での取組み)			
	(専門部として取り組んでいる研究)			

提出期限 令和2年 4月 7日(火)

令和2年度 東京都高体連研究部
委員会 開催予定日

令和2年 4月21日(火)

提出先

研究部委員長 田中 康之

都立立川高校 090-3901-7047

E-mail

Yasuyuki.Tanaka@member.metro.tokyo.jp

◇この調査内容は、原則、E-mailで、ご報告願います。

※この書式をデータとして必要な場合、東京都高体連ホームページからダウンロードできます。

または、田中宛にメールでご連絡下さい。添付ファイルとしてお送りします。